

そう だい
総 題 「創世記」

だいよんか
第4課 洪水

いとうひろし
伊藤裕史

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

こんしゅう そうせいきろくしょう きゅうしょう なが よ なが
今週は創世記6章から9章までの長いところを読んでいきます。長いですがここはノアの洪水のお話で、
せいしよ なか はなし いちど よ
聖書の中でもよみやすいお話です。ぜひ一度とおして読んでみてください。あらずじは、神様は「地上に人の悪
ま つね わる ころ おも はか ころん
が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって」(創世記6:5) 苦しまれ、もどに戻そう
こうずい お かぞく すく はなし みな こんしゅう まな ほろ ひと がわ
と洪水を起こされます。しかしノアの家族だけ救われるお話です。皆さんは今週の学びを、滅ぼされる人の側
かんが じぶん すく
で考えるのではなく、自分が救われるノアだったらどうするだろうか、と考えて学びをすすめてください。

に にちようび こうずい そな
2. 日曜日：洪水の備え

そうせいきろく じゅうさん なな じゅう よ
創世記6:13-17を読んでみましょう。洪水を計画された神様はノアに何を命じられたでしょうか。
かみさま すく はこぶね つく めい とき
神様はノアに救われるための箱舟を作るように命じられました。その時ノアのしなくてははいけなかったことは何
だっただでしょうか。神様の計画をきいてあわてることでしょうか。そんなひどいことを、と怒ることでは
うか。それとも、そんなことはおこるはずがないと何もしないことでしょうか。そうではありません。「ノアは、すべ
かみ めい は そうせいきろく にじゅうに かみさま めい ちゅうじつ おこな
て神が命じられたとおりに果たした」(創世記6:22)。そうです、神様の命じることを忠実に行うことで
みな かみさま めい ちゅうじつ おこな かみさま めい
た。皆さんは神様の命じることを忠実に行っていますか。神様がとお命じになることをそのまま行うこと、それ
しんこうしゃ すがた かみさま めい つく はこぶね いっか どうぶつ すく
が信仰者の姿なのです。ノアが神様の命じられるままに作った箱舟で、ノアの一家と動物は救われることにな
りました。

さん げつようび こうずい できごと
3. 月曜日：洪水の出来事

そうせいきななしょう よ
創世記7章を読んでみてください。ノアは神様の命じるままに「箱舟」を作って洪水から救われます。では
かみさま お こうずい いみ も わる
神様の起こされた洪水はどのような意味を持ったのでしょうか。悪いことばかり考えている人たちにとっては、自分
いのち すく たしば み ころずい じぶん あく まも
の命をうばうものでした。でも救われるノアの立場から見るとどうでしょうか。洪水は自分たちを悪から守って
れるもので、新しい素晴らしい世界を造ってくれるものでした。新たに「造る」ということは、これまであるもの
あたらし すば せかい つく あら つく
をこわすことでもあるのです。洪水はおそろしいものですが、そのことによって新しい世界が造られていくこと
こうずい あたらし せかい つく
もなるのです。

かみさま せいしよ お じだい おこな いま せかい あたらし
神様が聖書の終わりの時代に行われることも、今ある世界がこわされることとなります。しかし、それは新し

せかい さいそうぞう かみさま けいかく
い世界を再創造するすばらしい神様のご計画でもあるのです。

4. 火曜日：洪水の終わり

そうせいきはつしよう よ こうずい ひ お あめ みな あと おお
創世記8章を読んでみましょう。洪水を引き起こした雨はやみました。皆さんはその後どうしますか。多くの
ひと なに ま おも ちが
人は何もしない、じっと待つと思います。しかし、ノアは違いました。

はつしよう かみ かれ とも はこぶね けもの かちく みこころ と そうせいきはち いち
8章は「神は、ノアと彼と共に箱舟にいたすべての獣とすべての家畜を御心に留め、…」(創世記8：1)
ことば みこころ と ことば かみさま わす いみ
という言葉ではじまっています。「御心に留め」という言葉は「神様は忘れておられない」という意味です。ノアは
かみさま わす しん かみさま ちよくせつなに めい じぶん
「神様は忘れておられない」ことを信じることで、神様から直接何も命じられていなかったにもかかわらず、自分
かんが おこな そと ちゅういぶか かんさつ そと だ
でいろいろなことを考えて行っています。外を注意深く観察し、カラスやハトを外に出して、まわりがどうな
しら かみさま しんこう けつ なに しん かんが おこな
っているか調べました。神様への信仰は決して何もしないことではありません。信じて考え、行うことです。

たいせつ とき かみさま ことば ま おこな はこぶね さいご で とき
しかし、大切な時は神様の言葉を待って行わなくてはいけません。ノアも箱舟から最後に出る時は「さあ、あ
つま むすこ よめ みないっしょ はこぶね で そうせいきはち じゅうろく かみさま ことば ま
なたもあなたの妻も、息子も嫁も、皆一緒に箱舟から出なさい。」(創世記8：16)という神様の言葉を待って
そと で みな かみさま たいせつ ことば い ことば
から外に出ました。皆さんにも神様から大切な言葉が言われていませんか。その言葉にしたがいましょう。

5. 水曜日：契約(その1)

そうせいきはち じゅうはち こうずい そと で みな そと で さいしよ
創世記8：18でノアは洪水のあとにはじめて外に出ました。皆さんだったら、外に出て最初になにをしますか。
はこぶね なか くる おも そと で はし
これまで箱舟の中できゅうくつな苦しい思いをしていました。外に出て走りまわりたくなるでしょう。ノアたちも
おな せいしよ さいしよ かみさま れいはい い かみさま
同じでした。しかし聖書は、ノアが最初にしたことは神様への礼拝だったと言っています。神様といっしょにいる
よろこ そうせいき かみさま ひと つく あと あんそくにち ひと とき
ことを喜んだのです。創世記で神様が人を造られたすぐ後に安息日をつくれ、人といっしょにすごされた時と
あたら なに たいせつ ひと いっしょ
おなじです。すべてが新しくなり何をするか。大切な人と一緒にすごすのです。

そうぞう とき ちが ぎせい
ただ創造の時と違うことがありました。ノアは「犠牲」をささげなくてはいけなかったのです。ノアのささげもの
しめ かみさま かんしゃ
で示そうとしたのは神様への感謝でした。

こうずい おお か こうずい けつか かみさま ひと た ようい
さて、洪水によって大きく変わったことがあります。洪水の結果、神様が人の食べるものとして用意されていた
しょくぶつ て はい かみさま ひと どうぶつ た そうせいききゅう
植物が手に入らなくなったのです。そこで神様は人に動物を食べることをおゆるしになったのです。(創世記9：
さん た た た ちゅうい つた
3)しかし、なんでも食べてもよいということではありませんでした。食べるための注意もいっしょに伝えられたの
です。

6. 木曜日：契約(その2)

ろく もくようび けいかく に
これまでノアが何をしたかを見てきました。では洪水の時、神様は何をしてくださったのでしょうか。創世記8：
にじゅういち きゅう いち よ かみさま けつ ひと ほろ のぞ わ
21-9：1を読むと、神様は決して人を滅ぼすことを望んでおられたのではないことが分かります。そして
ひと つく こうかい わ こわ
人を造られたことを後悔されていたのでもないことが分かります。もしそうならすべてを壊されたでしょう。しか
かみさま こうずい わたし にんげん さいしゅつぱつ かみさま
し神様はこの洪水によって、私たち人間の再出発のチャンスをあたえてくださったのです。これはすべて神様
めぐ こうずいご ひと たい だいち のろ にど たび い もの
の恵みです。洪水後の「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。…わたしは、この度したように生き物をこと

ごどく^う打つことは、二度^{にど}とすまい。地^ちの続^{つづ}くかぎり、種^{たね}蒔^まきも刈^かり入れも、寒^{さむ}さも暑^{あつ}さも、夏^{なつ}も冬^{ふゆ}も、昼^{ひる}も夜^{よる}も、やむ^{やむ}ことはない。」(創世記8：2 1, 2 2) という言葉^{ことば}は、神^{かみ}様が人^{ひと}は同じ^{おな}ことを繰^くり返^{かえ}さないことを信^{しん}じておられることを示^{しめ}しています。皆^{みな}さんは神^{かみ}様の思^{おも}いにこたえて、悪^{あく}が世^せ界^{かい}に広^{ひろ}がらないようにしていきましょう。最後^{さいご}に神^{かみ}様は虹^{にじ}をかけて、私^{わたし}たちが大切^{たいせつ}なことを思^{おも}い出^だすことができるようにしてくださいました。虹^{にじ}は神^{かみ}様と人^{ひと}との契^{けい}約^{やく}のしるし、天^{てん}地^ち創^{そう}造^{ぞう}の時の安^{あん}息^{そく}日^{にち}と同じ働^{はたら}きをしています。

7. 金曜日：さらなる研究

「わたしがあなたたちと契^{けい}約^{やく}を立てたならば、二度^{にど}と洪水^{こうずい}によって肉^{にく}なるものがことごとく滅^{ほろ}ぼされることはなく、洪水^{こうずい}が起^おこって地^ちを滅^{ほろ}ぼすことも決^{けつ}してない。」(創世記9：1 1) 神^{かみ}様は人^{ひと}を信^{しん}じて洪水^{こうずい}をもつて滅^{ほろ}ぼさない^{やくそく}と約束^{やくそく}してくださいました。しかし、今^{いま}はどうでしょうか。もしかすると洪水^{こうずい}前^{まえ}の人^{ひと}々と同じ状^{じょう}態^{たい}なのではない^{わたし}でしょうか。私^{わたし}たちは同じ罪^{つみ}を神^{かみ}様の前^{まえ}でしているのです。今^{いま}、この世^せ界^{かい}で行^{おこな}われていることは、神^{かみ}の再^{さい}創^{そう}造^{ぞう}のときがせまっていることを知^しらせているのです。皆^{みな}さんは今^{いま}の時^じ代^{だい}のノアです。多^{おほ}くの人^{ひと}を皆^{みな}さんの忠^{ちゅう}実^{じつ}に作る箱^{はこ}舟^{ふね}に導^{みちび}いて、新^{あた}しく創^{そう}造^{ぞう}される世^せ界^{かい}へいっしょに行^いきましょう。